

令和6年度 八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会会議 次第

日 時 令和7年2月10日（月）

18：30～20：00

場 所 市役所旧館2階 第1・2会議室

1. 新委員紹介

2. 議題

- (1) 八千代市の認知症施策と取組について
- (2) 令和6年度 認知症初期集中支援チームが関わった事例について
- (3) その他

八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会 委員名簿

任期 R5.2.1-R8.1.31

	委員推薦依頼先団体名	委員名
1	一般社団法人八千代市医師会	中村 明澄
2	一般社団法人八千代市医師会	三浦 伸義
3	一般社団法人八千代市歯科医師会	中澤 正博 →稲山 雅治 ※
4	一般社団法人八千代市薬剤師会	小川 敦 →松本 孝章 ※
5	八千代病院認知症疾患医療センター	池城 緩厘弥
6	八千代市訪問看護師会	岩崎 千昇
7	八千代市介護サービス事業者協議会	柴田 茜
8	八千代市介護サービス事業者協議会	吉田 裕貴 →有本 多可江 ※
9	やちよケアマネ・ネットワーク	水戸部 亜紀子
10	社会福祉法人翠耀会（委託包括）	松田 淳子
11	社会福祉法人清明会（委託包括）	関根 太郎

※中澤 正博氏 委嘱期間：R5.2.1～R5.9.15
 稲山 雅治氏 委嘱期間：R5.10.2～R8.1.31
 ※吉田 裕貴氏 委嘱期間：R5.2.1～R6.3.19
 有本多可江氏 委嘱期間：R6.3.27～R8.1.31
 ※小川 敦氏 委嘱期間：R5.2.1～R6.10.30
 松本 孝章氏 委嘱期間：R6.11.8～R8.1.31

八千代市の認知症施策・取組について(令和6年度・令和7年度)

資料 1

【目指す姿】認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることができる

【課題】

- ・認知症本人の意見を聴けていない・認知症の人の家族の意見を聴けていない。
- ・認知症基本法についての理解を深めるための勉強会未開催
- ・認知症サポーター養成講座の受講経験が約3～6％(介護保険コース調査より)であり、地域の方の理解力も低い可能性が高い。
- ・認知症カフェやチャームレンジ等の居場所が少ない

【重点取組】

- ① **本人・家族の声を聴く**
- ② **認知症サポーターの対象拡大**
- ③ **居場所づくり**

【現状】認知症の方(本人)・家族の意思が反映された施策になっていない。また、認知症に関する地域の理解度も低く、認知症の方が暮らす良い環境ではない。

【令和6年度の重点取組について】

- ① **本人・家族の声を聴く**
本人ミーティング開催に向けて、視察を行い検討した。
認知症地域支援推進員(各地域包括支援センターに配置)と、本人や家族の声を聴く必要性を共有した。
- ② **認知症サポーターの対象拡充**
小学校向け認知症サポーター養成講座開催に向けて関係機関と検討を行ったり、開催に向けての体制づくりを行えた。
- ③ **居場所づくり**
主に、認知症地域支援推進員がチームオレンジの後方支援を行い、継続的に活動・運営を行えた。

【令和7年度の重点取組について】

- ① **本人・家族の声を聴く**
認知症地域支援推進員をはじめとする全ての支援者が、認知症の本人や家族の声を聴き、誰もが住みやすい地域を皆で一緒に作っていく。
- ② **認知症サポーターの対象拡充**
小学生向け認知症サポーター養成講座開催に向けて検討しつつ、それ以外の普及啓発方法も検討。
- ③ **居場所づくり**
認知症カフェ等の本人や家族が、気軽に集まり話せる場の増設を検討するとともに、既存の居場所の後方支援を継続する。

令和6年度

(1) 認知症に関する理解促進

1) 認知症サポーター養成講座の開催

① 認知症サポーター養成講座の実績

	R4	R5	R6(12月末)
一般	12回(225人)	15回(416人)	13回(396人)
学生向け	3回(145人)	4回(197人)	3回(73人)
職域向け	6回(66人)	4回(64人)	2回(66人)

② 小学生向けの認知症サポーター養成講座開催について【重点②】

- ・教育委員会へ相談。周知できる場の検討を行った。
- ・公民館館長会議にて、講座開催を打診。
- ・小学生向け認知症サポーター養成講座の開催に向けて、体制づくりの為にキャラバン・メイトの交流会を実施。
《日時》令和6年5月17日(金)14:00～16:00
《場所》八千代市水道局
《内容》「市の認知症施策の現状」「小学生向け認知症サポーター養成講座の模擬・解説」の講義後、意見交換会を行った。
《参加者数》地域包括支援センターのキャラバン・メイト 10人
事業所に所属するキャラバン・メイト 11人

③ 認知症サポーターになった方への今後の活動について検討【重点③】

認知症サポーター養成講座受講者の活動については、引き続き検討が必要。

2) 認知症の日(9/21)及び月間(9月)に合わせた集中的な普及・啓発

- ①フルルガーデン八千代での地域包括支援センター出張相談会
《月日》令和6年9月13日(金)13:00～16:00
《場所》フルルガーデン八千代
《内容》事前予約4人、直来が1人の計5人が利用。
地域包括支援センター職員が相談対応。
5人共認知症状のある本人の家族であり、本人に対しての対応方法や接し方の相談であった。
本人の居住する圏域の地域包括支援センターに情報共有したり、医療機関に繋ぐ等の対応を行った。

相談会



② パネル展示

- 《展示期間》
フルルガーデン八千代
令和6年9月3日(火)～9月13日(金)
八千代市役所
令和6年9月17日(火)～9月27日(金)

フルルガーデン八千代



市役所



③ 認知症特設展示コーナーの設置(市内図書館、市役所)



- ⑤市職員有志及び地域包括支援センター職員によるオレンジTシャツ着用
- ⑥広報やちよ特集号(9/1号)に記事を掲載

Tシャツ着用



3) 認知症講演会の開催

【第1部】講演会、【第2部】認知症の方を介護する家族交流会として開催。

第1回

- 《月日》令和6年9月19日(木)13:30～14:30
- 《場所》八千代市市民会館
- 《内容》「認知症の基礎知識と関わり方」
認知症疾患医療センター 八千代病院 認知症ケア専門士・精神保健福祉士 池城 緩厘弥氏
- 《参加者数》73人

第2回

- 《月日》令和7年1月31日(金)13:00～16:00
- 《場所》八千代市市民会館
- 《内容》「認知症の方を介護する家族の声」
認知症の人と家族の会 千葉支部 斉藤早苗氏
- 《参加者数》人

(2) 相談先の周知

1) 八千代市認知症安心ガイド(認知症ケアパス)の発行

- 令和7年2月に更新し、発行・配付予定
【配布予定先】医療機関・歯科医療機関・薬局・支所・地域包括支援センター・保健センター

2) 広報やちよ特集号(9/1号)に相談窓口等を掲載

(3) 本人・家族の声を積極的に聴く

1) 聴く場の開催の検討

- ①本人・家族交流会の開催
開催を検討したが、スタッフ側の体制整備不足や目的が定まらなかったこと等により開催を見送った。
- ②他団体の情報収集・本人ミーティング等の開催に向けて検討
本人ミーティングを既に定期開催している他市や八千代病院で開催した本人・家族の会の視察を行った。その結果を踏まえて、各地域包括支援センターに配置している認知症地域支援推進員と本人ミーティング開催に向けて検討。
総合相談等で相談を受ける際、本人等の声を拾い上げるアンテナを高くしておこうという共通認識を持ち、月1回開催している会議で情報共有している。

2) 本人・家族の声が聴ける場(認知症カフェ等)に積極的に訪問する

認知症カフェに出向いたり、運営者に定期的に様子を伺った。

令和7年度

(1) 認知症に関する理解促進

1) 認知症サポーター養成講座の開催

- ①小学生向けの認知症サポーター養成講座開催について検討【重点②】
 - ・大和田公民館主催講座にて、小学生対象の認知症サポーター養成講座を開催。(予定)
 - ・引き続き、教育委員会と認知症サポーター養成講座開催等
 - ・認知症サポーター養成講座開催以外の普及啓発方法を検討する。

② 認知症サポーターになった方への今後の活動について検討【重点③】

引き続き、認知症地域支援推進員会議の中で検討していく。

2) 認知症の日(9/21)及び認知症月間(9月)に合わせた集中的な普及・啓発

認知症地域支援推進員(各地域包括支援センターに配置)と検討及び協働し、引き続き認知症に関する普及啓発を行う。令和7年度は、これまで以上に様々な領域の団体等に声かけし、普及啓発を行っていく。

3) 認知症講演会の開催

市主催の認知症講演会を開催し、市民普及啓発の1つの機会とする。
認知症地域支援推進員や地域の関係者が把握している、「本人や家族が困っていることや聞きたいこと」を聴取し、テーマに反映させる。

(2) 相談先の周知

1) 八千代市認知症安心ガイド(認知症ケアパス)の発行

2) 広報特集号の掲載

(3) 本人・家族の声を積極的に聴く【重点①】

1) 本人や家族の声を聴く場の検討

認知症地域支援推進員(各地域包括支援センターに配置)や関係団体等と検討。

2) 本人・家族の声が聴ける場(認知症カフェ等)に積極的に訪問する

認知症カフェの開催場所の圏域地域包括支援センターの認知症地域支援推進員を中心に後方支援を行っていく。

令和6年度

予
防

(1) 地域包括支援センターによる介護予防教室の開催

【介護予防教室※にて認知症をテーマに開催した件数】

※「運動」「栄養」「口腔機能」「認知症」のカテゴリで内容を検討し開催。(複数テーマも可)

	R4	R5	R6(12月末)
介護予防教室総数	79	77	74
運動	67	52	48
栄養	23	29	24
口腔	8	24	18
認知症	38	36	33

医
療
・
ケ
ア
・
介
護
サ
ー
ビ
ス
・
介
護
者
へ
の
支
援

(1) 総合相談での対応(地域包括支援センター)

地域包括支援センター(市内6か所)の新規相談の件数

445(11%)

4065

502(11%)

4439

324(11%)

2871

認知症に関する相談

認知症以外の相談

R4R5R 6 (11月末)

(2) 認知症初期集中支援チーム

1)チームに繋いだ人数

新規5件(R7. 1月末)

前年度からの継続2件

2)地域包括支援センターとの連携強化会議

地域包括支援センター・八千代市認知症初期集中支援チーム・市とて連携強化会議を開催。

(3) 認知症の人の家族交流会 開催

【第1部】講演会,【第2部】認知症の方を介護する家族交流会として開催。

第1回

《日時》令和6年9月19日(木) 14:45～16:00

《場所》八千代市市民会館

《参加者数》13人

第2回

《日時》令和7年1月31日(金) 13:00～16:00

《場所》八千代市市民会館

《参加者数》

(4) 医療介護従事者向け研修会の開催

《日時》令和6年7月25日(木) 19時～20時30分

《会場》八千代市 市民会館

《参加者数》29人

《内容》八千代市認知症診療連携の会及びエーザイ株式会社主催で「地域の『困った』をひも解く糸口」
「アルツハイマー病の早期診断と診療連携～抗A β 抗体薬時代の認知症診療～」をテーマに多職種研修会を開催。

若
年
性
認
知
症
の
人
々
へ
の
支
援
・
社
会
参
加
支
援

(1) チームオレンジの支援

チームオレンジ(サロン愛宕MORE, ユーアイおれんじカフェ)に対して, 活動場所の圏域である地域包括支援センターの認知症地域支援推進員が定期的に訪問し, どのような活動を行っていくのか運営者と一緒に検討したり, 参加者支援等の運営の為の後方支援を行った。

(2) 介護予防サロン運営者向け研修会

認知症地域支援推進員より「サロンやサークル等に参加していた方が, 認知症になり参加しづらくなり退会し居場所が無くなる」という課題が挙がった。認知症になっても地域のコミュニティに通い続けられるような介護予防サロンである為に, 認知症に関する基礎知識や対応方法について講義した。また, 自分事として認識してもらう為に「もし, 自分が認知症と診断されたら」というテーマでグループワークも実施。

《日時》令和6年8月29日(木) 14:00～16:00

《場所》八千代市福祉センター

《参加者数》47名

(3) はいかい高齢者家族支援サービス

はいかいをする傾向のある高齢者を介護している家族に, 位置情報システムを利用する費用の一部を助成。

年 度	R4	R5	R6(11月末)
利用実人員(人)	14	13	15
件数(件)	95	91	90

(4) SOSネットワーク

はいかいにより行方不明となった高齢者等を, 警察署などの協力団体によるネットワークを利用することにより, 早期に発見し保護している。

年 度	R4	R5	R6(12月末)
利用実人員(人)	13	14	5
件数(件)	13	14	5

令和7年度				
予 防	(1) 地域包括支援センターによる介護予防教室の開催 引き続き, 介護予防教室の1つのテーマとして実施する。			
医 療 ・ ケ ア ・ 介 護 サ ー ビ ス ・ 介 護 者 へ の 支 援	(1) 総合相談での対応(地域包括支援センター) 【重点①】 地域包括支援センターの総合相談にて, 引き続き相談対応を行う。 総合相談時に本人や家族の声を聴いた際には, 記録しておき, 各地域包括支援センターで作成する認知症推進事業計画に反映させたり, 認知症地域支援推進会議(月1回開催)にて共有する。			
	(2)認知症初期集中支援チーム 令和7年度も引き続き, 認知症初期集中支援チームと地域包括支援センターが円滑に連携が行えるよう, 連携強化会議を行う。また, 市と認知症初期集中支援チームも情報共有に努める。			
	(3)認知症の人の家族交流会 開催 【重点①】【重点③】 引き続き, 定期的に開催する。また, 家族交流会にて, 自由に話をするだけでなく, こちらが聴きたい内容も聴いていく。(地域で暮らしている中で困っていること等)			
	(4)医療介護従事者向け研修会の開催 令和7年度も引き続き, 八千代市認知症診療連携の会及びエーザイ株式会社主催の研修会を開催予定。市も協力し開催する。			
若 年 性 認 知 症 の 人 々 へ の 支 援 ・ 社 会 参 加 支 援	(1) チームオレンジの立ち上げ及び支援 【重点③】 引き続き, 令和5年度にチームオレンジとして立ち上がったグループに対して, 認知症地域支援推進員が後方支援を行いつつ, 市も定期的に訪問し, 認知症に関する情報を提供を行ったり, 今後の活動内容のを一緒に検討する等の支援を行う。 また, 新規チームオレンジの設置についても引き続き, 検討を行う。			
	(2)はいかい高齢者家族支援サービス 引き続き, 状況把握に努める。			
	(3)SOSネットワーク 引き続き, 状況把握に努める。			

共生社会の実現を推進するための

認知症基本法

2024年1月に施行されました



今と未来を ともに創ろう

認知症の人を含めた国民一人一人が
その個性と能力を十分に発揮し、
相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら
共生する活力ある社会の実現を推進します。

本人が得意なことが
地域交流につながる

香川県 綾川町



得意なことを活かした木工品づくりを地域の皆と一緒に楽しむ場を企画しました。作品は、保育園等に寄贈し、地域での交流も広がっています。

千羽鶴で甲子園を目指す
高校球児たちと交流
和歌山県 御坊市

甲子園を目指す高校球児のため、地域のデイサービスや施設の皆で作った千羽鶴を持って激励に行きました。



本人が運営する農園やカフェを通じて広がる地域交流の輪

京都府 京都市

本人がやりたいことをもとに、農園やカフェを地域の皆と一緒に運営しています。
誰でも参加できるため、交流の輪も少しずつ広がっています。



2024年12月発行

認知症の本人からのメッセージ①

「役割」が元気の源！
「対等な関わり」で、楽しく暮らせる

鈴木 貴美江さん

京都府在住 85歳

京都府認知症応援大使
認知症本人大使「希望大使」



誰かのお役に立つことが
私の元気の源

「なんか違うなあ？」とモヤモヤしていた75歳の時、認知症と診断されました。はつきりしたことで、気持ちはスッキリしました。

主治医のすすめで認知症カフェに行ってみると、ステキ

な喫茶店で、同じ年代の方と知り合い、人見知りの私も話が弾み、コーヒーの淹れ方も教わりました。次に通った認知症カフェは、やりたいことを聞いてくれて、自分で選べます。洗い物を手伝ったり、コーヒーを淹れたり、「役割がある」ことは楽しいし、やりがいになります。

支援者が味方になって後押ししてくれるので自転車にも乗れるようになりました。ボーリングは昔より良いスコアが出るし、まだまだやりたいことがいっぱい。忘れてもうまくつきあう方法が見つかれば怖くありません！



仲間の後押しで
自転車に乗れた

いま、私たちにできること

2024年1月1日に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。
2022年時点で、高齢者の約3.6人に1人が認知症又はその予備群と言われています。
認知症は若くしてなる場合もあり、一人一人が自分ごととして考える時代です。
これからの自分たちの暮らしについて、一緒に考えていきませんか。

基本法の
全文はこちら



共生社会を、ともにつくる

(認知症基本法1条 目的)

共生社会とは？

認知症の有無に関わらず、一人一人が個性と能力を発揮しながら、互いに尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会。

- ◆ 認知症基本法をもとに、全国で共生社会に向けた計画を作っています。
- ◆ 世代や分野を超えた様々な取組を地域の特性を活かして進めています。

我がまちの
取組

ご近所会議で、知恵を出し合う

- ✪ 困りごとがあったときに、本人やご家族、ご近所、友人が声をかけあって集まる「ご近所ケース会議」を開催し、ともに暮らしていく知恵や工夫を出し合っています。

(鹿児島県 大和村)



認知症の本人の声を聞く

(認知症基本法3条 基本理念)

認知症基本法の理念とは？

認知症基本法では、「全ての認知症の人が、基本的人権を持つ個人として、自分の意思で生活できるようにすること」を理念の一つとして、様々な取組を進めていくこととしています。

- ◆ 何をしたいか、何があるといったかなど、認知症の本人だからこそ気づくことを、周りにも伝えることが大切です。
- ◆ 認知症の本人だからこそその声をもとに、誰もが暮らしやすい地域を皆で一緒につくっていきましょう。

我がまちの
取組

スーパー銭湯が世代を超えた集いの場に

- ✪ 本人の声がかきかけで、地元のスーパー銭湯に、誰でも参加できる集いの場をつくりました。その名も「ごぼうホッとサロン」。湯上がりにビールを飲みながら、地域のみんなと楽しく語り合う場になっています。

(和歌山県 御坊市)



「新しい認知症観」に立つ

新しい認知症観とは？

認知症になると何もできなくなるという考えではなく、認知症になってもできること・やりたいことがあり、地域で仲間等とともに、希望を持って自分らしく暮らすことができるという考え方。

- ◆ 何もできなくなる、といったこれまでの考え方を、新しい認知症観に変えることが、すべての取組の出発点です。
- ◆ 地域で暮らす全ての人と新しい認知症観をともに育んでいきましょう。

我がまちの
取組

子育て中の職員をみんなで支える

- ✪ 介護施設で職員より子育て中の勤務についての相談があり、子連れ出勤をお試しではじめてみることにしました。人生の先輩方に子育て中の悩みを相談しています。

(東京都 品川区)



認知症の本人からのメッセージ②

自分らしい暮らしを諦めずに続けていこう

藤田 和子さん

鳥取県在住 63歳

(一社)日本認知症本人
ワーキンググループ代表理事
認知症本人大使「希望大使」

✪ 私は45歳で若年性アルツ

ハイマー病と診断されまし

た。日々、工夫をしながら暮

らしています。自分なりに考

えて決めてきました。会議や

講演などに出かけることも

私の日常の一部です。

✪ さまざまな人たちと出会い、語り合い、自分らしい人生

を生きています。認知症になってからもさまざまな可能

性が広がっていくことを実感しています。地元の本人

ミーティングでも、話しやすい場を活動支援者と丁寧に

作っています。参加する人も増えてきて、市の取組に提案

したり、自分たちの暮らしをサポートする製品・サービス

毎日続けるから
お化粧品もできる



の開発に参画しています。

✪ 基本法のもとで、自分

らしい暮らしを諦めるこ

となく続けていける人が

全国で増えていくように、

それを後押しする人も増

えてほしいです。

地元のラジオ局で
「ミニ・本人ミーティング」
を生放送